

# 商売はんじょう大忙し

日本橋の周辺には魚河岸以外にも、さまざまな生活用品を扱う問屋や店がたくさんあった。表通りには大店とよばれる大きな商店が建ち並び、商人の町として発展した。このころにできた大店が、現在の三越や大丸などの百貨店につながっていく。

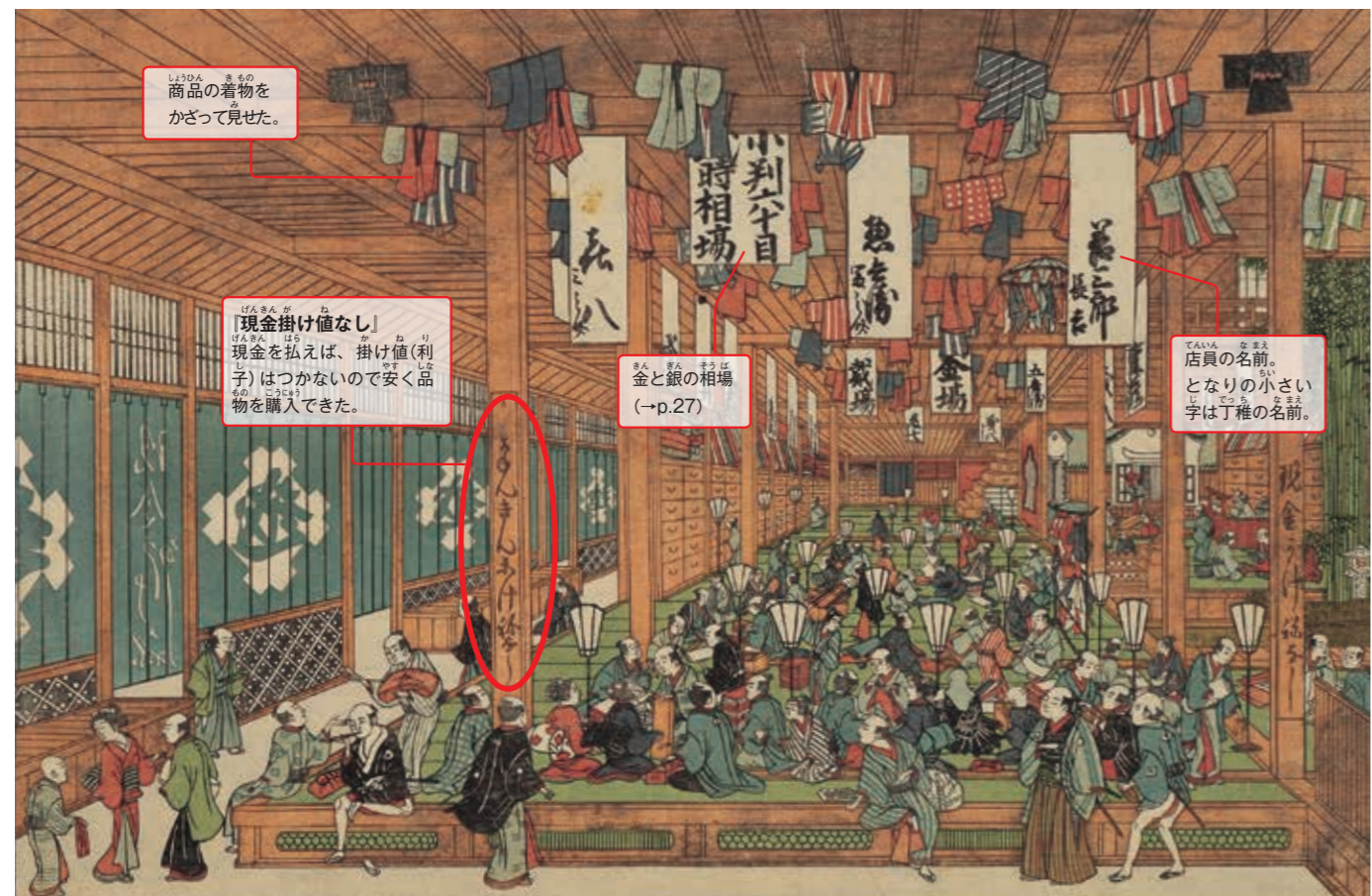


通旅籠町(現・日本橋大伝馬町)  
京都からやってきた商人、下村彦右衛門が開いた大丸呉服店(現在の丸百貨店)。本町通り沿いに大門通りまで続く大きな店だった。

## <江戸の商業を支えた上方の商人たち>

大坂から船でさまざまな品物が江戸に運ばれるようになり(→p.38)、上方(関西)からたくさんの商人がやってきて、日本橋の表通りの大店を開いた。関西は古くから商人の

町として栄えていたため、商売がじょうずで、商品についてもくわしかった。上方商人の活躍によって江戸の商業は大きく発展した。



1830年の商品の着物をかざって見せた。

「現金掛け値なし」  
現金を払えば、掛け値(利子)はつかないので安く品物を購入できた。

金と銀の相場  
(→p.27)

店員の名前、  
となりの小さい字は丁稚の名前。

## 商売のやりかたを大きく変えた越後屋

江戸時代、呉服は反物を得意先に持ちこんで売る方法で取り引きされ、客は大名や旗本などに限られた。支払いは年2回で、利子がつくので値段は高かった。そこで、伊勢(現・三重県)から来た商人、三井高利は「越後屋」という呉服屋を開き、店先で品物を見せて現金で安く売る新しい商売をはじめた。その場で現金を払えばだれでも買うことができるので、店は大はんじょうした。



36 江戸の町に伊勢商人の店がたくさんあったので、「江戸名物、伊勢屋、稲荷に犬のくそ」といわれた。

## 伊勢商人と近江商人

江戸に進出した上方商人のうち、とくに伊勢商人と近江(現・滋賀県)商人は大きな成功をおさめた。伊勢商人は、伊勢に本店を置きながら、江戸店とよばれる支店を江戸の町の表通りにどんどんつくり、商売の才能を発揮した。一方、近江商人は全国を行商しながら、江戸だけでなく各地に店を構えた。



日本橋通一丁目(現・日本橋一丁目)  
近江商人の代表格、白木屋の呉服店があった。



●天びん棒1本で商売をする近江商人  
近江商人は天びん棒をかついで全国を回った。近江から持ってきた麻布などを売って、売った先でも品物を仕入れて、またほかの土地で売った。商売でもうけるだけでなく、売った人にも、買った人にも、社会にとってもためになる「三方よし」という精神を大切にした。

●おもな伊勢商人

三井家	越後屋(呉服屋) *現・三越
小津家	小津屋(紙屋) *現・小津産業
角屋家	角屋 (廻船問屋)
伊藤家	伊藤呉服店(呉服屋) *現・松坂屋
高津伊兵衛	伊勢屋伊兵衛 (かつお節問屋) *現・にんべん

●おもな近江商人

大村彦太郎	白木屋(呉服屋)
伊藤忠兵衛	紅忠(呉服屋) *現・丸紅、伊藤忠
西川家	西川甚五郎商店 (寝具店) *現・西川

今でも続いているところもあるね。

## みかんと塩鮭で大もうけした紀州の商人

紀伊国屋文左衛門  
元禄年間(1688~1703)に活躍した紀伊国(現・和歌山県)出身の商人で、故郷のミカンを船で江戸に運んで売り、帰りに江戸から塩鮭を上方に運んでもうけた。その後、幕府の御用商人として本八丁堀三丁目に材木問屋を開業してはんじょうさせたが、ぜいたくな生活をしてむだ使いをしたり、材木置き場が火事に巻きこまれたりしたことで、商売は一代で終わった。



## 親と離れて丁稚奉公

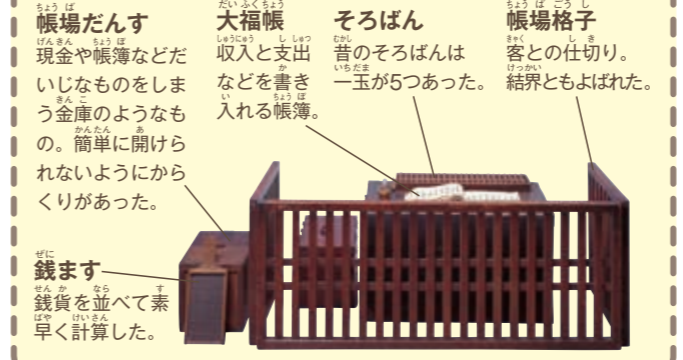
大店ではたくさんの使用人が働いていたが、そのなかには子どももいた。「丁稚」や「小僧」とよばれ、店では「子ども」とよばれた。10~12歳くらいで国(故郷)の親元を離れて、江戸の店に住んで働き、店の雑用などを手伝いながら読み書きやそろばんも習った。店に来てから手代という立場になるまでの5~6年は里帰りもできなかった。



●のれん分けてなに?  
同じ店で丁稚から一定の年月をまじめに勤めた使用人は、独立して同じ屋号(店の名前)でのれんをかかづて、店を出すことが許された。のれん代として、独立資金ももらえた。

## 昔は帳場、今はレジ

店の一角にあるこうして囲まれた帳場は、現金の出し入れをする今のレジのようなところで、ここで支払いをしたり、伝票の整理をしたりした。店の主人や番頭が座り、丁稚などほかの使用人や客は格子のなかには入れなかった。



帳場だんす 大福帳 そろばん 帳場格子  
現金や帳簿などだ 収入と支出 昔のそろばんは 客との仕切り。  
いじなものをしま などを書き 一玉が5つあった。 結算ともよばれた。  
う金庫のようなもの。簡単に開けられないようになりがあった。

銭ます  
銭貨を並べて素早く計算した。

## いちばん有名な伊勢商人



三井高利(1622~1694)  
伊勢国松坂(現・三重県松阪市)出身の商人。「現金掛け値なし」の商法で成功したのち、両替商も開く。高利が開いた越後屋が、現在の三越百貨店につながる(→p.92)。

37 商人にとって「のれん」は店の信用を表すとても大事なもので、信用を失うことを「のれんに傷がつく」という。